
池袋駅周辺地域基盤整備方針 中間まとめ

〈資料目次〉

1. はじめに	P.1
2. 上位計画のまとめ	P.2
3. 池袋駅周辺地域基盤整備の考え方	P.3
4. 基盤整備の方針と検討内容	P.5
5. コアエリア・にぎわい交流エリア基盤整備方針図	P.6
6. 基盤整備の流れ	P.7
7. コアエリア整備において今後具体化すべき検討ポイント	P.8

はじめに

- 池袋駅は4社8線の鉄道路線が結節するとともに、路線バス・高速バスのバスターミナルも有し、新宿・渋谷に比肩する巨大ターミナル駅である。
また、駅施設内の地下通路とこれに接続する地下街が、まちの東西を結ぶ歩行者ネットワークの中核となっていることは池袋駅の大きな特徴となっている。
- しかし、駅施設や周辺建築物は、高度経済成長期以降、増改築を繰り返しており、耐震性はもとより防火・避難などの災害時の安全性の向上、多様な利用者に配慮したバリアフリー環境の向上、乗換に伴う混雑緩和（乗換利便性の向上）などが必要となっている。また、現状の駅周辺でみると、鉄道と大型商業施設による街の東西の分断、鉄道敷きを越える東西横断動線の不足、260万人を超える駅利用者に対する駅前広場面積の不足、駅前の通過交通による駅とまちとの分断、バス・タクシー乗場の分散配置による交通結節機能の低下など、多くの取り組むべき課題を抱えている。
これらの中には個別施設の取り組みでは解決が困難な課題も多数存在するため、課題解決に向けては、公民の多様な関係者の連携した取り組みが重要である。
- こうした中、池袋駅周辺地域は平成27（2015）年7月に都市再生特別措置法に基づく特定都市再生緊急整備地域に指定され、平成28（2016）年7月には「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン」が策定された。
特定都市再生緊急整備地域内では、すでに豊島区新庁舎が完成しており、現在、Hareza 池袋（旧庁舎跡地）のまちづくりや東池袋四・五丁目地区の開発、造幣局跡地での防災公園や環状5の1号線の整備などの基盤整備が具体的に進められている。
また、池袋駅西口地区・南池袋二丁目C地区・東池袋一丁目地区の3地区で、大規模な再開発が検討されるとともに、環状5の1号線の整備に伴う池袋駅前の明治通りの再編、開発を契機とした池袋駅東西連絡通路（東西デッキ）や地下通路、駅前広場の整備など公共施設の整備・再編の検討が進められている。
さらに、これらの動向をきっかけとして、池袋駅、駅と一体となる建築物、駅周辺街区の建築物について、施設更新が進展することも想定されている。
- 基盤整備方針は、これら具体化している事業、検討中の整備計画、今後想定される施設更新計画のいずれもが、単に敷地内の建築物の改善にとどまらず、池袋駅周辺のまちづくりの課題解決に寄与することとなるよう、公共と民間との協力のもとに、池袋駅の機能更新と再編、駅前広場や道路などの公共施設の再編・拡充、駅周辺の再開発等を一体的に行うことにより、限られた空間に多様な都市機能を集積しつつ、安全で快適な都市空間を創出することを目指すものである。

■豊島区国際アート・カルチャー都市構想(H27.3)

「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」

○国際アート・カルチャー都市の目標

豊島区の魅力を国内外に発信していくことにより、都市イメージの向上を図る。それによって、豊島区が区民はもとより区外の人からも「選ばれるまち」になり、地域への誇りや愛情が醸成され、豊島区を愛する人々がその魅力をさらに発信し、人と産業を惹きつける好循環を創出。

■豊島区国際アート・カルチャー都市構想実現戦略(H28.7)

【文化戦略】

多様性を踏まえた文化芸術の展開

【国際戦略】

世界とつながり人々が集まるまち

【空間戦略】

出会いが生まれる劇場空間



第1戦略

まち全体の価値を高めるブランディングの推進

第2戦略

劇場空間の創出

第3戦略

人間優先の回遊空間の整備

■池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン(H28.7)

○池袋駅周辺地域のまちづくりの視点

アート・カルチャーの魅力で、
世界中から人を呼び寄せ、
新文化・新産業を育む

都市空間を人間優先へ、
誰もが主役になれる舞台に

先人が培ってきた文化資源を活かしながら、
新たなまちづくりへ

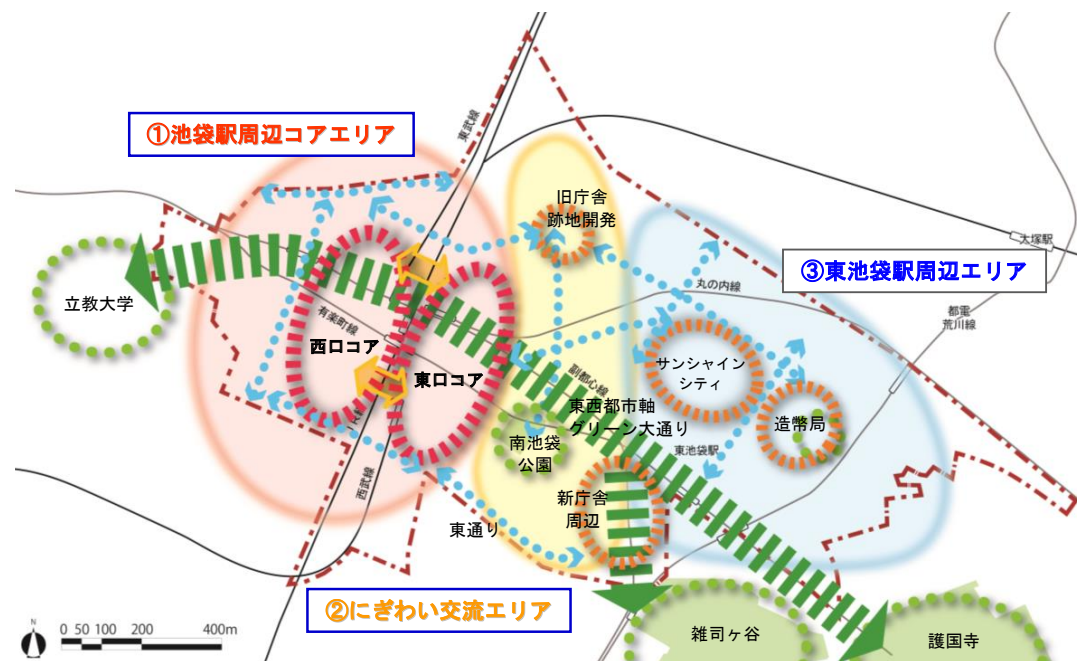
○池袋駅周辺地域まちづくりの将来像

「世界中から人を惹きつける

国際アート・カルチャー都市のメインステージ」

—境界を歩き、にぎわいと四季の彩りを感じるまち・池袋—

○エリア特性を踏まえたまちづくりの考え方と基盤整備方針を主に検討するエリア



まちづくりのエリア分け(案)

○池袋駅周辺地域のまちづくりの戦略

戦略1 文化と生活・産業が創発するまちづくり

- ・交流・創造・発信を支える機能の導入
- ・多様な人々を惹きつけ、回遊が生まれる触れ合い空間
- ・創造と居住が一体となったまちの形成

戦略2 駅からにぎわいが広がるまちづくり

- ・特色あるエリアを連携し、にぎわいが広がるまちづくり
- ・駅東西南北のシームレスな移動

戦略3 境界を歩き、楽しめるまちづくり

- ・歩いて楽しい歩行者優先の空間とネットワーク
- ・歩行者優先を実現する交通基盤整備

戦略4 誰もが安全・安心に暮らし、集えるまちづくり

- ・安全が確保されたまち
- ・安心して住み・活動できるまち

戦略5 環境と共生し、四季の彩りに包まれたまちづくり

- ・環境性能の高いまち
- ・四季の彩りに包まれた個性ある街並み

①池袋駅周辺コアエリア（池袋駅東西口周辺など）

- ・池袋駅のターミナル機能と一体的な周辺の開発により、商業や文化などの集客機能や交流機能の高度な集積と連携を図る。
- ・世界有数の乗降客を駅からまちへと誘導し、安全で快適な歩行者空間を確保する。
- ・駅東西の連携を強化し、スムーズかつ安全な東西の歩行者流動を確保する。

②にぎわい交流エリア（旧庁舎跡地など）

- ・既存の商業集積等を生かしつつ、老朽化した建築物の建替え、街区再編、低未利用地の活用等による池袋駅コアエリアと東池袋駅周辺エリアをつなぐ連続したにぎわいの創出や南北の連携を図るとともに、防災性の向上、交流空間の整備を進める。

③東池袋駅周辺エリア（区庁舎・造幣局地区・木密地域など）

- ・既存の都市機能集積（サンシャインシティ、としまエコミューゼタウン、ライズシティ等）に加え、造幣局地区の開発や南池袋での街区再編により、文化・交流機能をはじめとした新たなにぎわいを創出する。
- ・街並み再生地区は、街区再編まちづくり制度を活用した共同建替え等を進め、区庁舎に隣接する官公署施設の集積や立地特性を生かした安全・安心で快適なまちづくりを進める。
- ・東池袋四・五丁目をはじめとする木造住宅密集市街地の防災性の向上と防災公園（造幣局地区）の広域的な防災機能の確保により、本エリアだけでなく豊島区全体の防災機能の強化を進める。

具体的な民間の都市再生事業の動向に併せて、先行的に基盤整備の検討が必要なエリア

今後の民間の都市再生事業の動向に応じて、基盤整備の検討を行うエリア

池袋駅周辺地域
まちづくりの
5つの戦略
(まちづくりガイドライン)

- 戦略1 文化と生活・産業が創発するまちづくり
- 戦略2 駅からにぎわいが広がるまちづくり
- 戦略3 界隈を歩き、楽しめるまちづくり
- 戦略4 誰もが安全・安心に暮らし、集えるまちづくり
- 戦略5 環境と共生し、四季の彩りに包まれたまちづくり



池袋駅周辺地域
基盤整備の
6つの考え方

- 1 国内外に発信する池袋の玄関口としての『都市の顔』の形成
- 2 駅とまちの多面的な連携を支える『東西都市軸』の形成
- 3 多彩な界隈をつなぐ回遊性の向上
- 4 東西駅前広場空間の役割分担を踏まえた交通結節機能の強化・再編
- 5 歩行者優先の快適な交通ネットワーク整備
- 6 次世代へつなぐ都市の防災機能・環境性能の向上

- 戦略1・2
- 戦略2・3
- 戦略1・3
- 戦略2・3
- 戦略1・2
- 戦略4・5

1 国内外に発信する池袋の玄関口としての『都市の顔』の形成

- 駅機能の更新に併せて防災性と利便性を高め、ターミナル拠点機能を強化する。
- 駅前広場と周辺建物で一体的に池袋の『都市の顔』となる象徴的な空間を形成する。
- 駅前広場を歩行者優先化し、周辺建物と一体的な公民連携した歩行者空間整備を図る。
- 東西デッキ、サンクンガーデンなど、駅関連施設・周辺商業建物の更新と連携して重層的な移動空間を創出する。

2 駅とまちの多面的な連携を支える『東西都市軸』の形成

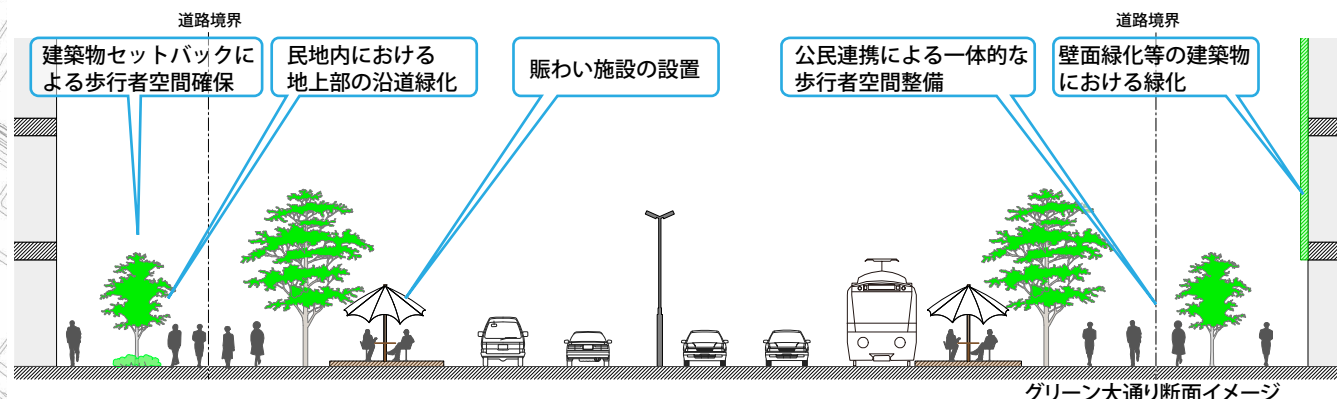
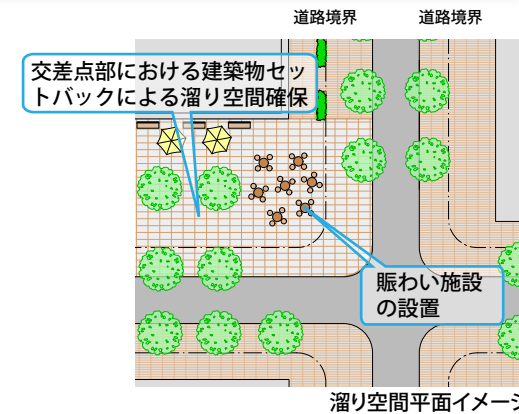
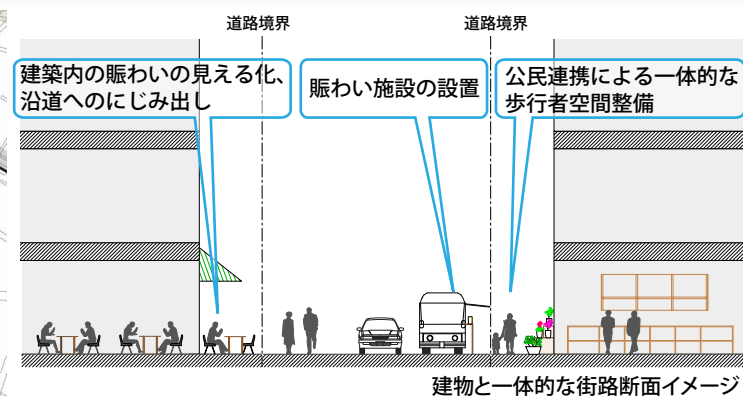
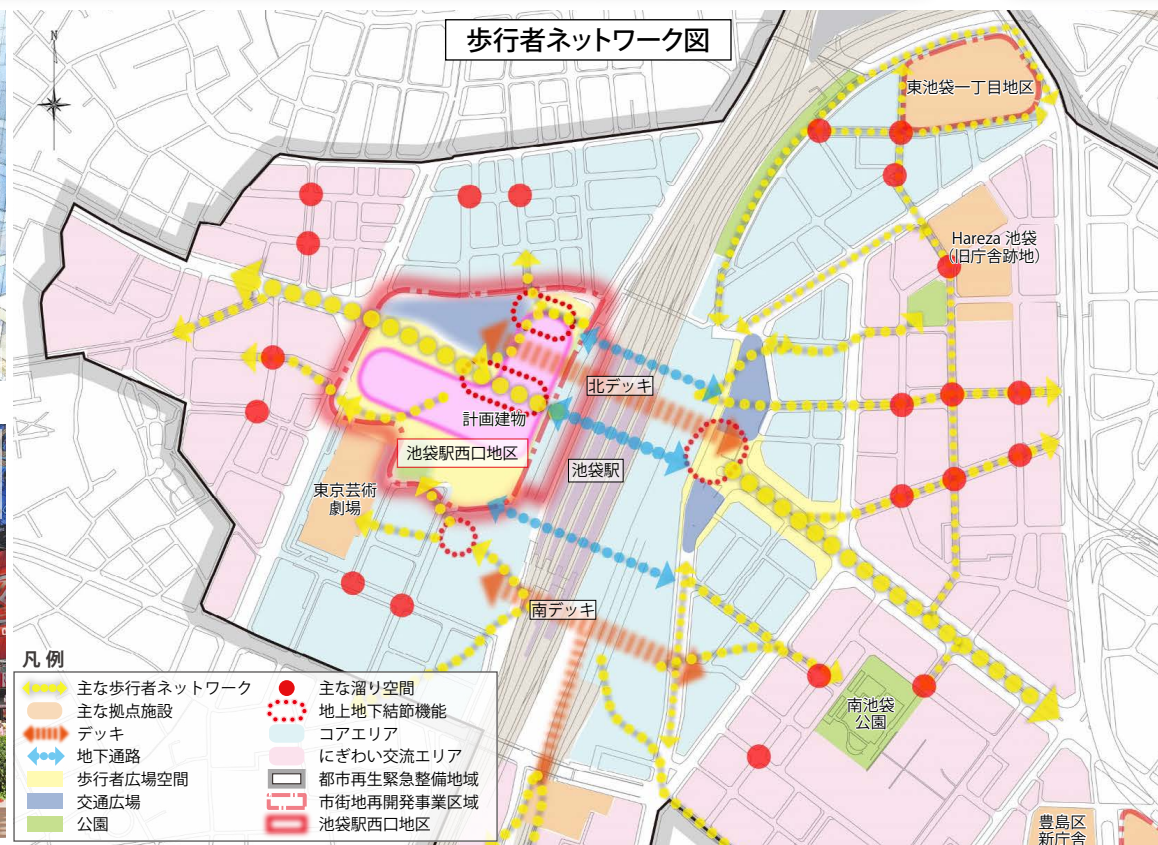
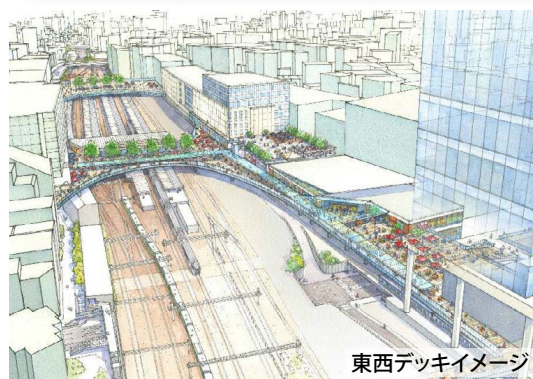
- 駅とまちをデッキや地上・地下結節空間で重層的に接続することで、グリーン大通りやアゼリア通りと「東西都市軸」を形成し、駅東西の交流やまちの回遊性を促進する。

基盤整備項目

駅	連絡通路	駅前広場	歩行者	道路	自転車	防災	公園・環境	情報
駅	駅関連施設	東西駅前広場	歩行者ネットワーク	道路ネットワーク・駐車場	自転車ネットワーク・駐輪場	防災・防災施設	公園・環境施設	情報インフラ

3 多彩な界隈をつなぐ回遊性の向上

- コアエリアでは、歩行者を優先した公民連携の都市空間を整備する。
- 駅周辺の重層的歩行者動線をまちなかへ平面的に広げる。
- 商業と文化・観光スポット等の多彩な界隈をつなぎ、案内サインにより回遊性を高めることで、エリアや沿道ごとの特徴をいかした質の高い歩行者ネットワークを形成する。
- 交流の発信の舞台となる賑わい溢れる溜り空間をまちなかに創出する。



記載内容は今後の関係者協議や検討により変更の可能性があります。

駅

連絡通路

駅前広場

歩行者

道路

自転車

防災

公園・環境

情報

4

東西駅前広場空間の役割分担を踏まえた交通結節機能の強化・再編

- バス・タクシー乗降場の再編整備により利便性と安全性を向上する。
- 高速バスや観光バス等の導入スペースを確保し、空港や関東北部や東北、上越方面等の高速バスなど、多様な交通ニーズに対応する広域交通結節拠点を形成する。
- 鉄道の新たな乗り換え動線の確保や改札位置の変更等により利便性を向上する。

駅

連絡通路

駅前広場

歩行者

道路

自転車

防災

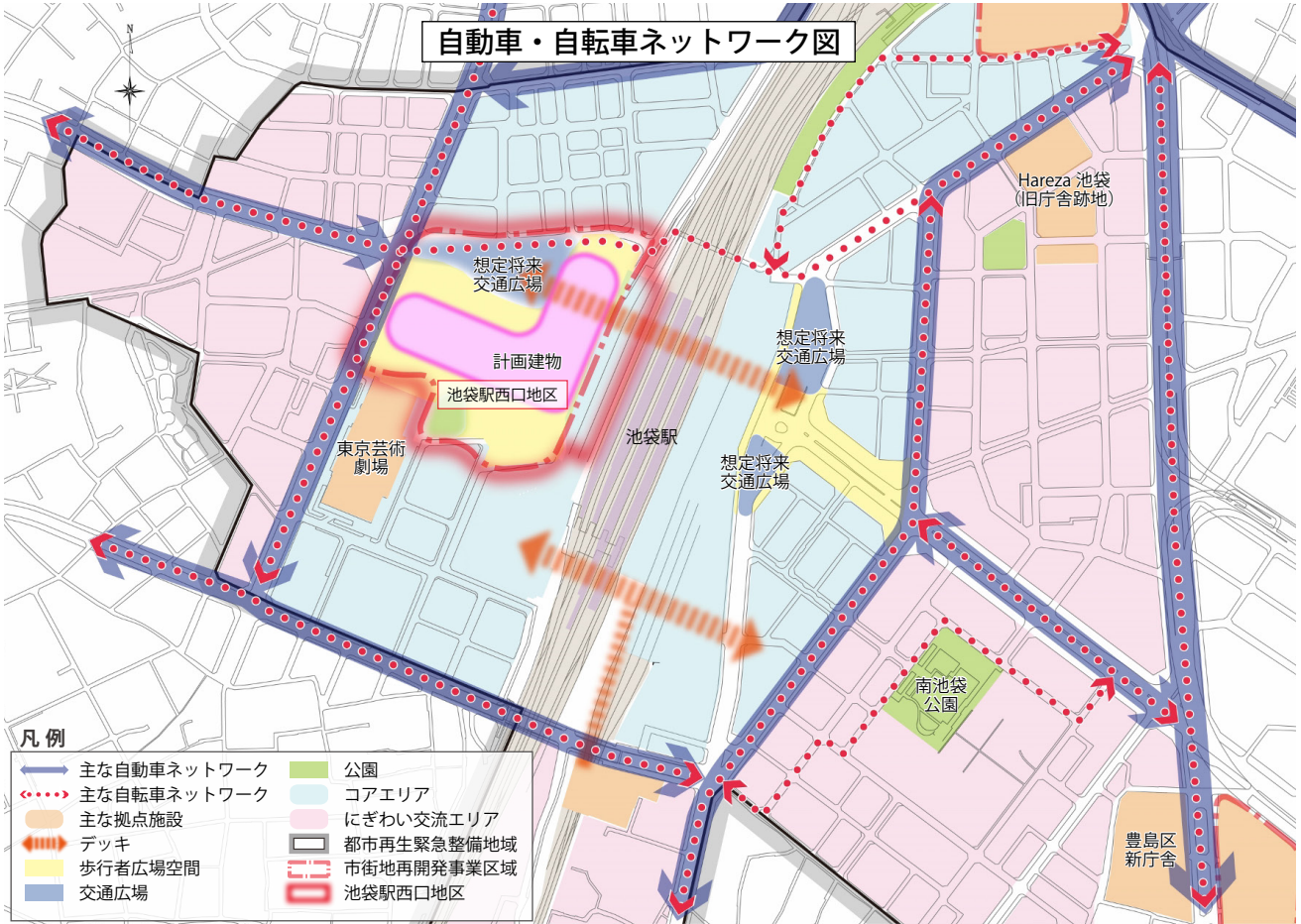
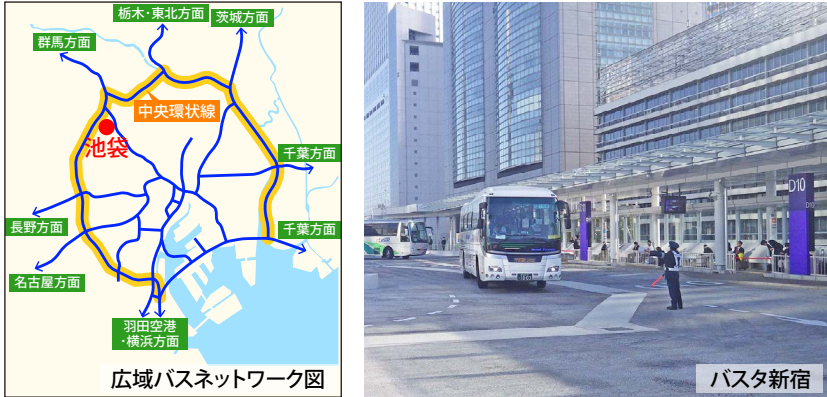
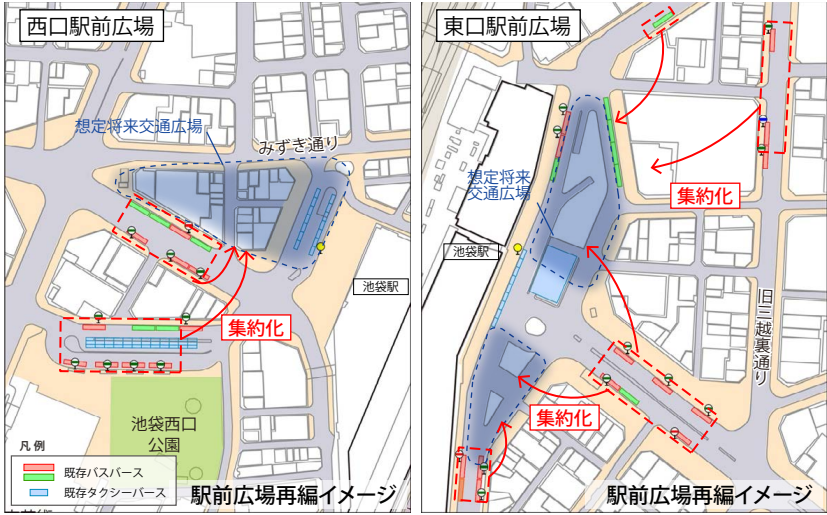
公園・環境

情報

5

歩行者優先の快適な交通ネットワーク整備

- 池袋駅周辺地域の体系的な道路ネットワークの形成により自動車流動の整序化を図る。
- 駅周辺の都市開発と連携した共同荷捌き駐車場・フリンジ駐車場を確保する。
- 歩行者を考慮した安全で快適な自転車走行空間、自転車駐車場の整備により、自転車ネットワーク形成を図る。



駅

連絡通路

駅前広場

歩行者

道路

自転車

防災

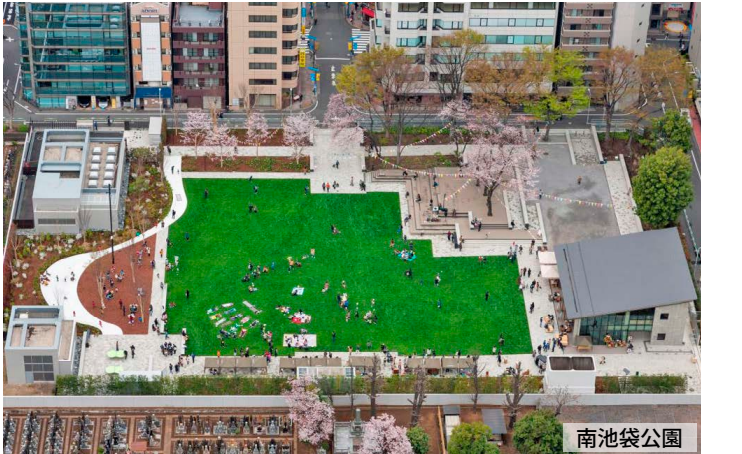
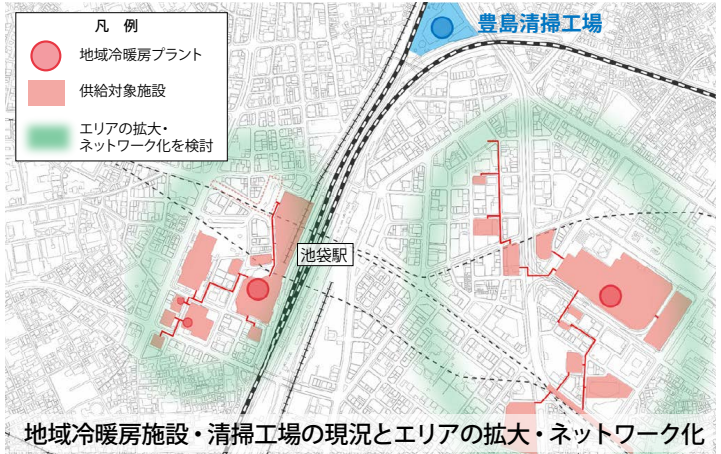
公園・環境

情報

6

次世代へつなぐ都市の防災機能・環境性能の向上

- みどりの骨格軸や個性ある都市計画公園を中心とするみどりのネットワーク形成により、潤いのある豊かな都市空間を形成する。
- 「池袋駅周辺地域都市再生安全確保計画」に基づき、帰宅困難者対策等を進める。
- 地域冷暖房施設の活用や自立・分散型エネルギーシステムの導入を促進する。
- 平時や災害時に使用可能な案内サイン・Wi-Fi等の情報インフラの整備を進める。



記載内容は今後の関係者協議や検討により変更の可能性があります。

駅関連施設

- 【方 針】
- ・わかりやすく快適な駅空間の形成
 - ・鉄道路線間、各種交通モード間の乗換え利便性の向上
 - ・地下通路を含む駅空間の安全性、防災性の向上
- 【検討内容】
- ・わかりやすい**案内誘導サインの整備**
 - ・ホームの拡幅、**ホームドアの設置**
 - ・ユニバーサルデザインへの対応
 - ・周辺都市開発との連携による地下通路の拡幅、整序
 - ・地下通路と地上を結ぶ、新たな接続口（サンクンガーデン）の整備

東西連絡通路（北デッキ・南デッキ）

- 【方 針】
- ・東西のまちとの重層的な接続による賑わいと歩行者回遊性の向上
 - ・駅関連施設との連携による各交通モードの乗換え利便性の向上
 - ・地下通路の慢性的な混雑や動線輻輳の緩和
 - ・新たな空間創出による防災性の向上（避難経路、一時待機場所）
- 【検討内容】
- ・駅機能更新や周囲の施設更新との連携による一体的、効率的な整備計画
 - ・〈北デッキ〉：東口駅前広場と西口駅前広場とを接続する歩行者動線（空間）整備
 - ・〈南デッキ〉：メトロポリタンプラザから明治通りまで接続する歩行者動線（空間）整備

東西駅前広場

- 【方 針】
- ・池袋の玄関口にふさわしい都市空間の形成
 - ・多様な交通モードの結節機能の強化
 - ・安全で快適な歩行者空間の拡大
- 【検討内容】
- ・バス、タクシー、LRT 等の交通機能の集約配置
 - ・高速バス、観光バス等の**交通ニーズへの対応**
 - ・東西デッキ・地上・地下の結節空間整備（東西連絡動線との接続、サンクンガーデン整備等）
 - ・周辺都市開発に合わせた公民連携による歩行者空間の拡大整備
 - ・駅前広場と周辺施設とが一体的に池袋の「都市の顔」を形成
 - ・〈東口〉：明治通りの車線減少（4車線→2車線）、南北ロータリー化による歩行者空間の拡大整備
 - ・〈東口〉：グリーン大通り（駅前～東口五差路交差点）の広場化
 - ・〈西口〉：地下通路、北デッキから交通広場や周辺街区へのシームレスな歩行者動線整備
 - ・〈西口〉：アゼリア通り（駅前～西口五差路交差点）の広場化、みずき通りの歩行者優先化

歩行者ネットワーク

- 【方 針】
- ・エリアや沿道の特徴をいかした快適な歩行者ネットワーク整備
 - ・交流や発信の舞台となる溜り空間（広場空間）の創出
- 【検討内容】
- ・東京芸術劇場や Hareza 池袋（旧庁舎跡地プロジェクト）、南池袋公園等の拠点をつなぐ歩行者動線及び歩行者空間の拡大整備（**南北区道の整備**）
 - ・歩行者ネットワーク上の辻空間（交差点等）をいかした、公民連携の溜り空間（広場空間）の整備

道路ネットワーク・駐車場

※赤字は早期実現を想定する項目

- 【方 針】
- ・新たな道路整備や道路幅員構成変更等による池袋駅周辺地域の自動車流動の整序化
 - ・主要な交差点改良等による自動車交通の円滑化
 - ・誰もが利用しやすく、移動しやすい交通環境実現
 - ・駐車施設・経路の集約、フリンジ駐車場整備、共同荷捌き推進等によるコアエリアの車両交通抑制
- 【検討内容】
- ・西口五差路や東口五差路の改良整備
 - ・都市開発と連携した域内駐車場、フリンジ駐車場、共同荷捌き場の適正配置
 - ・自動車流動整序化に伴う旧三越裏通りや東栄会本町通り等の幅員構成の変更
 - ・新交通システム（LRT 等）の導入

自転車ネットワーク・駐輪場

- 【方 針】
- ・周辺地域から池袋駅周辺コアエリアへの自転車アクセス性向上
 - ・歩行者ネットワークに配慮した安全で快適な自転車ネットワーク形成
- 【検討内容】
- ・自転車ネットワーク及び利用環境に応じた自転車走行空間の整備
 - ・周辺都市開発と連携した自転車駐車場整備

防災・防犯施設

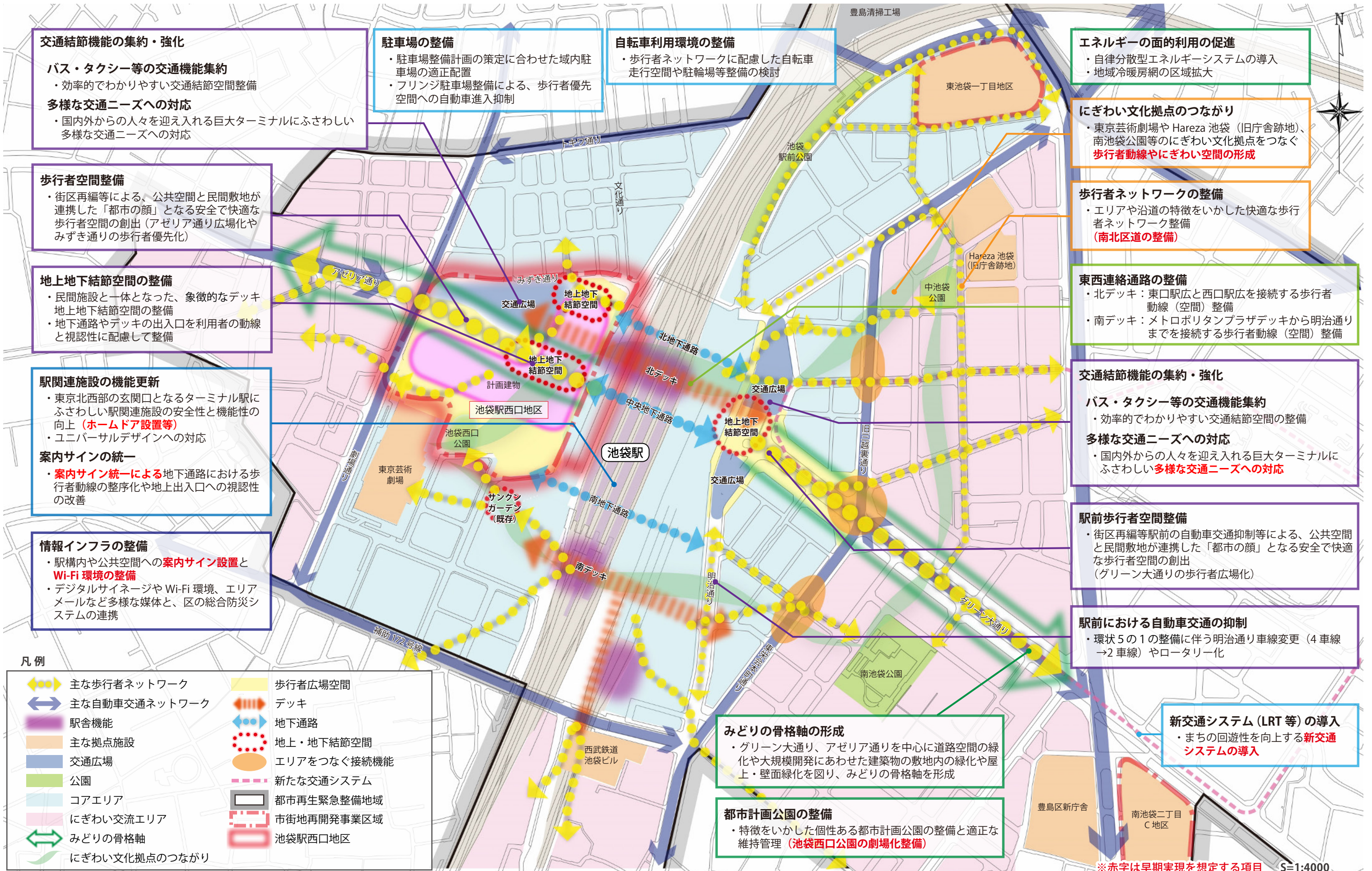
- 【方 針】
- ・基盤施設整備と連動した防犯拠点の整備と安全確保施設の充実・強化
 - ・災害時の情報発信及び情報連絡機能の強化
 - ・都市機能の早期の機能回復
- 【検討内容】
- ・池袋駅周辺地域都市再生安全確保計画に基づく、帰宅困難者の一時収容場所、備蓄倉庫、情報提供設備等の整備
 - ・施設の耐震性の確保、自律分散型エネルギーの導入

公園・環境施設

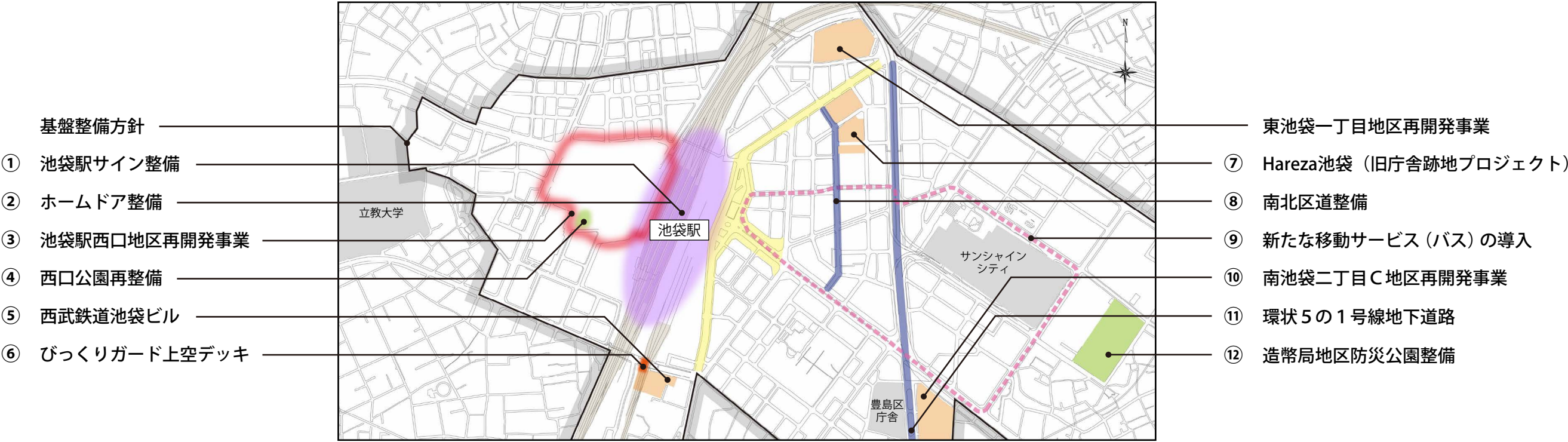
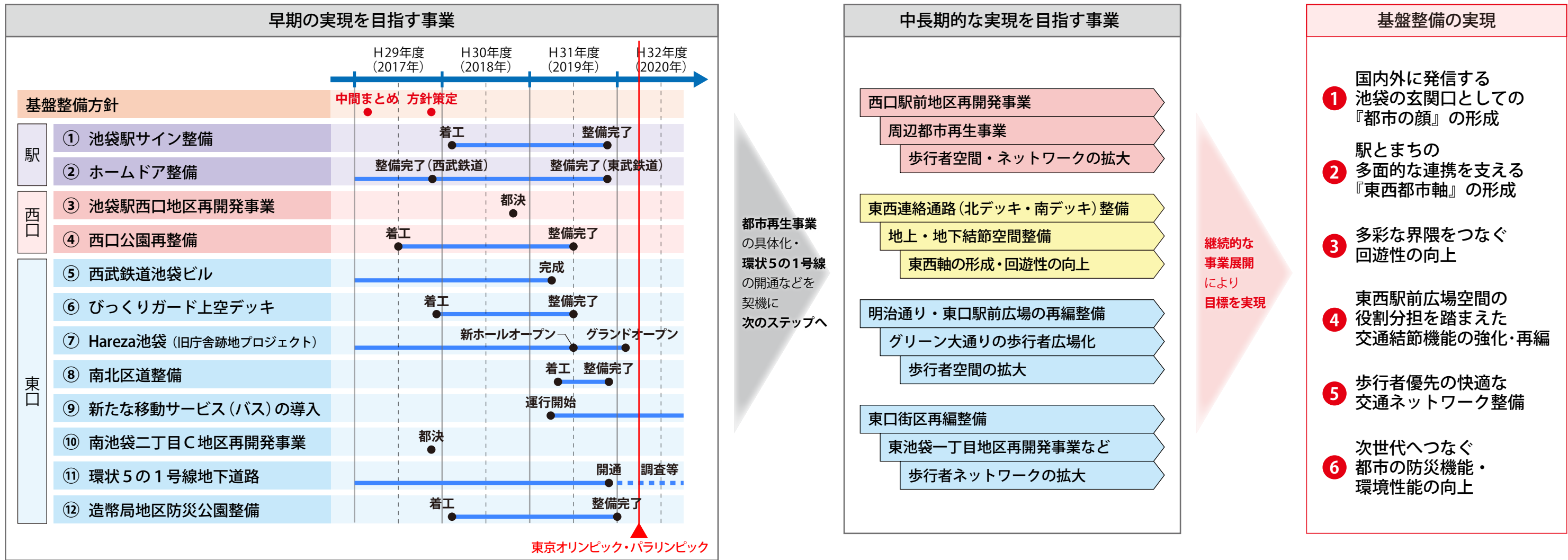
- 【方 針】
- ・みどりのネットワーク形成による潤いのある豊かな都市空間形成
 - ・地域冷暖房施設の拡大や未利用エネルギーの利用促進による都市の高効率化
- 【検討内容】
- ・特徴をいかした個性ある都市計画公園の整備と適正な維持管理（**池袋西口公園の劇場化整備**）
 - ・みどりの骨格軸を中心とした周辺道路や広場、民間敷地・建築物等における緑化空間の拡大
 - ・都市開発にあわせた地域冷暖房施設の区域拡大
 - ・清掃工場の排熱利用など未利用エネルギーの活用

情報インフラ

- 【方 針】
- ・地区内の回遊性の向上と災害時の情報提供体制の構築
- 【検討内容】
- ・駅構内や公共空間への**案内サイン設置と Wi-Fi 環境の整備**
 - ・デジタルサイネージや Wi-Fi 環境、エリアメールなど多様な媒体と、区の総合防災システムの連携



■事業スケジュール



西口駅前広場

車両交通

交通機能の立体的集約

分散しているバス乗り場・タクシー乗り場等の交通機能を立体的に集約し、交通結節機能を強化する。

西口五差路の解消

西口五差路を四差路に改良し、自動車交通の円滑化を図る。

自転車利用環境の充実

民間開発に合わせ、自転車駐輪場の整備を推進するとともに、自転車走行空間を整備する。

歩行者交通

周辺街区と駅前広場のつながり

駅前の交通広場と周辺街区の連続的なつながりを図る。また、街路から広場への受けの空間整備を行う。

地上・地下・デッキの結節

東西デッキ・地上・地下を結ぶ結節空間を整備する。

拠点施設等を結ぶ歩行者ネットワーク

拠点施設である東京芸術劇場や北側街区、池袋駅東口エリア等との歩行者動線を確保し、賑わいの連続性に配慮した一体的な歩行者空間の形成を行う。

景観・まちづくり

「都市の顔」をつくる

アゼリア通りから続く駅の中央部を、地上・地下・デッキの結節空間を中心としたまちの玄関口として相応しい都市の顔として整備する。

視点場の確保

賑わい文化拠点を結ぶ軸上や街から駅への入り口においては、視点場（都市景観を楽しむポイント）の確保に配慮した用途配置、空間整備を図る。

駅前広場空間と西口公園の一体化と建物低層部の賑わい

駅前広場と西口公園を一体的空間とし、東京芸術劇場と都市の顔を結ぶ広場と西口公園等を象徴的な空間として一体的に整備する。また、再開発建築物の低層部には路面型の賑わい施設を整備し、周辺市街地との賑わいの連続性を創出する。

防災・防犯

災害時の駅周辺の退避空間・経路等の確保

駅や地下街等利用者の退避経路や一時退避場所として、駅前広場等の安全に通行、滞留できる空間を整備する。

防犯拠点の整備

駅前広場利用者の平時の安全を確保するため、交番等の防犯拠点を計画的に整備する。

駅関連施設

交通結節機能

乗換え利便性の向上

周辺再開発に伴い再編される交通広場と合わせ、各交通機関間の動線整理により乗換え利便性を向上する。また、分かりやすいサイン計画を策定し、案内誘導を充実させる。

たまり空間・滞留空間の創出

デッキ整備、地下通路拡幅等により、待合空間など歩行者滞留空間を創出する。

駅の安全性の向上

ホームの拡幅・ホームドアの設置など、駅施設の安全性を向上させる。また、バリアフリー動線の確保を行う。

歩行者交通

駅東西歩行者ネットワークの構築

既存の地下通路や高架下の連絡通路に加え、東西の駅前広場をつなぐデッキレベルの快適な歩行者ネットワークを構築することで、駅東西のにぎわいあるまちのつながりを創出する。

駅回遊動線の構築

デッキを駅東西建物の南北貫通通路と接続することで、駅周囲を回遊するにぎわいのあるネットワークを構築する。

既存地下通路の混雑緩和（歩行者動線の強化）

デッキレベルの快適な駅東西歩行者ネットワーク構築による地下通路利用歩行者交通のデッキへの転換や既存地下通路の拡幅、整序化等により、地下通路の混雑を緩和する。

まちづくり

駅東西拠点施設のつながり

西口の東京芸術劇場、東口のHareza 池袋（旧庁舎跡地）・南池袋公園など、アート・カルチャー都市構想に資する拠点施設のつながりを構築する空間整備、用途配置を図る。

情報発信機能の強化

来街者や外部等へのイベント等の地域情報、地域ブランドの発信・PRを行う。

防災

災害時の退避空間の確保

デッキ・地下通路・駅前広場には駅や地下街等からの退避者の一時退避場所として、安全に滞留できる空間を確保する。

災害時の駅周辺の退避経路の確保

駅や地下街等利用者の退避経路としてデッキを活用する。デッキ、地下通路は周辺市街地での大火災発生時には駅東西への避難経路として機能する。

浸水対策の強化

地下通路につながる出入口への浸水防止施設の設置等により浸水対策を強化する。

東口駅前広場

車両交通

交通機能の集約

分散しているバス乗り場・タクシー乗り場等の交通機能を集約、再配置を行い、交通結節機能を強化する。

地区内交通の誘導

東口街区の地区内交通を東栄会通り・旧三越裏通り等に誘導し、駅前への通過交通の流入を抑制する。

自転車利用環境の充実

民間開発に合わせ、自転車駐輪場の整備を推進するとともに、自転車走行空間を整備する。

歩行者交通

周辺街区とのつながり

駅前の交通広場と周辺街区の連続的なつながりを図る。また、街路から広場への受けの空間整備を行う。

地上・地下・デッキの結節

東西デッキ・地上・地下を結ぶ結節空間を整備する。

拠点施設等を結ぶ歩行者ネットワーク

拠点施設であるHareza 池袋（旧庁舎跡地）や南池袋公園、池袋駅西口エリア等との歩行者動線を確保し、賑わいの連続性に配慮した一体的な歩行者空間を形成する。

景観・まちづくり

「都市の顔」をつくる

グリーン大通りから続く駅の中央部を、地上・地下・デッキの結節空間を中心としたまちの玄関口として相応しい都市の顔として整備する。

視点場の確保

賑わい文化拠点を結ぶ軸上や街から駅への入り口においては、視点場（都市景観を楽しむポイント）の確保に配慮した用途配置、空間整備を図る。

建物低層部の賑わい

再開発建築物の低層部には路面型の賑わい施設を整備し、周辺市街地との賑わいの連続性を創出する。

防災・防犯

災害時の駅周辺の退避空間・経路等の確保

駅や地下街等利用者の退避経路や一時退避場所として、駅前広場等の安全に通行、滞留できる空間を整備する。

防犯拠点の整備

駅前広場利用者の平時の安全を確保するため、交番等の防犯拠点を計画的に整備する。